

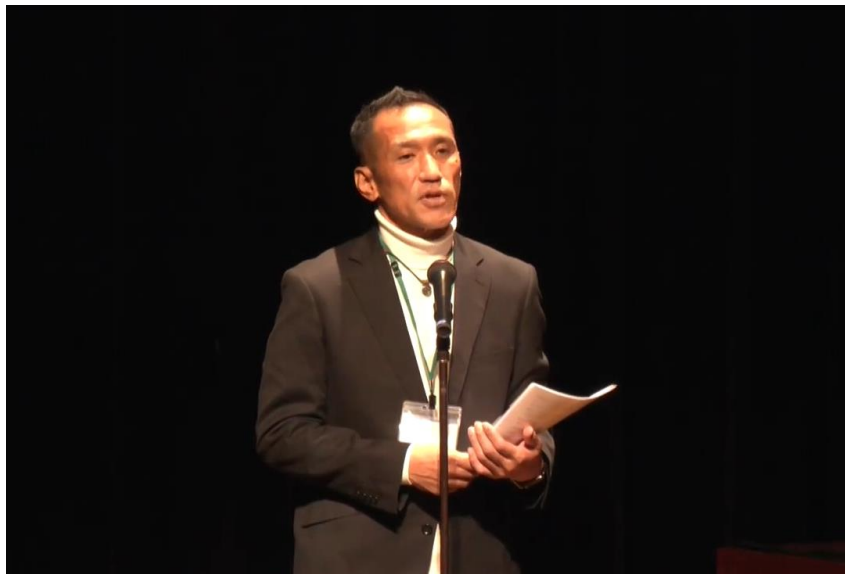
第160回 中材業務および感染対策研究会/事業報告

研究会役員 一般社団法人日本感染管理支援協会 代表理事 土井英史

皆様、こんにちは。いつも研究会活動にご協力、ご尽力賜りましてありがとうございます。

今回の研究会の内容を極々簡単にご報告させていただきますので、最後までご覧ください。

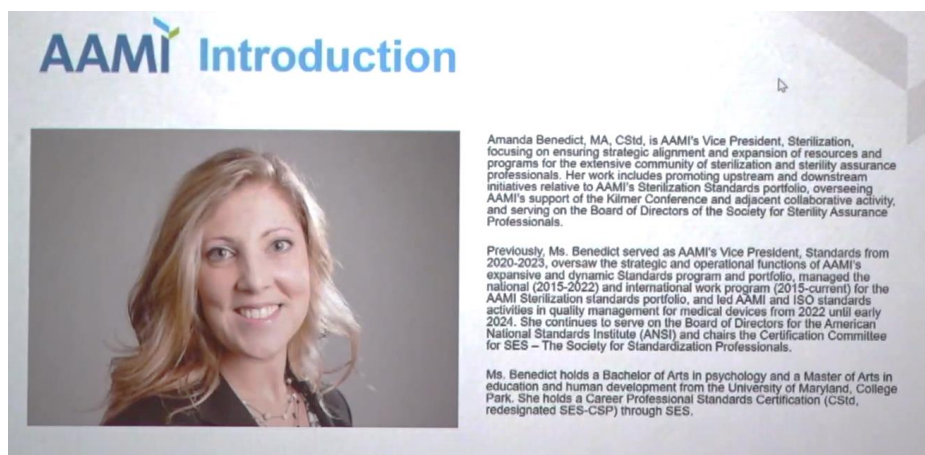
今回の司会は、今回より当研究会の役員となっておりました、社会福祉法人恩賜財団済生会
中津病院 手術センターサプライ部 平松治さんが担当してくださいました。



また、今回の挨拶は、これまた今回から当研究会の役員になっていただきました、大阪大学医学部附属病院 材料部 副部長 齋藤篤さんが皆様にご挨拶していただきました。研究会に新しい方々が入られて、新陳代謝があることは研究会としてはとても良いことだと思っています。



さて、今回のお一人目の講演ですが【米国医療機器振興協会（AAMI） ガイドラインの現状とトピックス】とすることで、アメリカの AAMI の Amanda Benedict さんにお話をいただきました。彼女は、日本の滅菌供給業務の方々には必ず耳にしたことのある AAMI（Association for the Advancement of Medical Instrumentation）の Vice President, Sterilization としてご活躍されている方です。



彼女とは、2024年4月にラスベガスで開催された、私が毎年参加しております米国医療滅菌処理協会（HSPA）で、HSPAの教育部長のナタリー（以前、研究会でもZOOM講演していただきました）からご紹介を受け、その後、色々とアメリカの滅菌に関する情報交換をしている中で、今回の大阪での研究会での講演をお引受けしていただきました。当日の講演は、この報告だけではとても語りつくせない多岐に渡る内容の講演であり、講演を聞いていただいた方々は、現在のアメリカの滅菌領域の問題点や取組みなどがとても良く理解できたのではないかと思います。概要を簡単に記載しますと『医療施設向けの現行のAAMIスタンダードとガイダンスについて』と『新しいガイダンスとして現在策定中のトピックス』についてのお話でした。これらを列挙するだけでも報告が大変長くなりますので、講演の詳細が必要な方は、今回、Amanda Benedictさんの講演については、サクラ精機(株)がスポンサーとなってきており、後日、冊子化が予定されておりますので、是非そちらをご覧くださいと思います。

続きまして、二人目の講演ですが【欧米の感染対策、滅菌供給におけるトピックス ～2023年、2024年のイギリス、アメリカの学会参加と病院訪問をとおして～】として、私が担当させていただきました。

した。



この研究会は、滅菌供給業務と感染対策の相互理解を深める為に二つの領域を取り込んだ研究会となっておりますが、その感染対策の部分を私が担当させていただきました。お話の内容としては『水と水使用のトピックス』として、2024年7月にアメリカのフェニックスで開催された AHE (Association for the Health Care Environment 医療環境サービス協会) に参加した時に講演をされていた CDC のクー・チョン先生のお話と、COVID-19 前後で『バスルーム』の清掃手順が変更になったことのお話、並びに、様々な内視鏡の内腔の“乾燥”がアメリカで問題となっており、その対策はどうするのかというお話と、最後に、尿道留置カテーテルを使用しない『フォーリーフリー』のお話をさせていただきました。これらに関しては、日本での取り組みがまだまだですが、是非とも取り組んでほしい内容を講演させていただきました。

そして、午後からの講演ですが【医療現場における滅菌保証のガイドライ 2021 ～第1種滅菌技師の立場から～ 再生処理の輪について】として、社会福祉法人恩賜財団済生会中津病院 手術センターサプライ部 岸 潤一さんにお話いただきました。



病院の概要から中材の概要をお話していただき、そして“感染の輪”の説明に引っ掛けて『再生処理の輪』の重要性（どれか一つでも断ち切ってしまうと滅菌保証は破綻してしまいます）と、それぞれの工程に基準を設けて取り組む必要性について、実践現場で行っていることを例に取りお話していただきました。特に、中材の実践現場では、基準を明文化して、そして同じ作業ができるように標準作業手順書の重要性を強調されていました。加えて、滅菌保証には、中材だけでなく、患者さんに使用する実践現場との協力を強く求めるお話でありました。

続きまして【CSSD 委託業者としての品質管理 ～ピンチの時こそ改善のチャンス～】として、ワタキューセイモア株式会社 近畿支店 大出めぐみさんからお話しがありました。



今回は、7つに焦点をあてて委託業者として“どのように品質管理ができるか”と言うお話をさせていただきました。7つとは『1, 滅菌供給部門 (CSSD) の目的』『2, CSSD は製造業』『3, 製造業における品質』『4, CSSD における品質管理の難しさ』『5, 時に発生する不良品や失敗』『6, 失敗した時にどう対処するのか』『7, 一度きりでなく、継続的な取組み』を捉えてのお話でした。委託業者としての視点だけでなく、実践現場の方々とのコミュニケーションが如何に重要であるのかということも強調されていた講演であったと思います。得てして、職員と外部委託業者の間には“見えない溝”がある時がありますが、いずれも“患者さんの安全の為にはどうするのが良いのか”を示唆してくれた講演であったと思います。

本日、最後の講演は【鋼製小物の材質と取り扱いについて ～CSSD 管理者の目線から～】と言う内容で、本日司会も担当していただいております社会福祉法人恩賜財団済生会中津病院 手術センター サプライ部 平松治さんに講演をいただきました。



今回は、色々な手術器械・器具の“材質”について、日常業務で知っておけば、器械・器具の寿命にも関わることと、事故に対する対策としても重要であると言うお話でした。そして、RMD の手術器械・器具の素材には、アルミ、黄銅、チタン、タングステン、ベークライト、PEEK (ポリエーテルエーテ

ルケトン)、シリコン、ステンレスがあり、今回の講演では、その一つずつについて、素材の説明、その素材が使われている身の回りの製品、そして、その素材の手術器械・器具にはどのようなものがあり、注意点なども加えてお話していただきました。そして、自施設での事例とその対応策などもお話いただき、参加者の方々にとっては、日常業務でとても参考となるお話だったと思います。今回のお話は、知っているかいないのかで、患者さんの安全は基より、病院のコストパフォーマンスに置いても非常に重要なお話であったと思います。



最後に研究会からのご連絡をして、今回の報告とさせていただきます。

第160回の会場は、ドーンセンター ホール (7F) で500名収容できる会場でしたが、次回から会場を変更して『YMCA 国際文化センター』へ会場を変更いたします。つまり、第160回が、ドーンセンター最後の研究会となりました。コロナ前は、多くの参加者の皆さんがお越しいただきましたが、コロナ期間中から大阪の研究会は、Web 配信も行っていた関係上、コロナ後も当日、お越しになる参加人数が減ってしまい、ここまでの収容人数の会場が必要なくなりました。研究会を長く継続して行く為には“身の丈に合った運営”も必要ですので、どうぞ皆様ご理解の上、今後ともご協力賜りますようお願いいたします。

以上